

難病の子どもたちとご家族が 安心して過ごせる施設を支援しています。

難病の子どもたちのご家族は、旅行や外出の際に、周囲への配慮、設備への不安、食事対応の心配など、多くの負担を抱えています。そのため、旅行を諦めてしまうご家庭も少なくありません。

私たちは、山梨県北杜市白州町にある1日60名が宿泊できる“気兼ねなく過ごせる宿泊施設”『あおぞら共和国』の設備、宿泊の支援やイベントなどのお手伝いをしています。

外の世界を知らない子どもたちを、自然の中へ。
ご家族に、安心して過ごせる時間を。



左から4号棟、3号棟、2号棟、1号棟、交流棟、キッズボックス



あおぞら共和国のアクセスと利用方法

あおぞら共和国 所在地：山梨県北杜市白州町鳥原2913-134

JR中央本線「小淵沢駅」よりタクシーで約12分

中央自動車道「小淵沢IC」より車で約15分

利用方法、イベントの情報など詳しくは
ホームページをご覧ください。

難病ネットの「あおぞら共和国」——→



甲府一高あおぞら会 会員募集!!

甲府一高あおぞら会の会員数400名、実行委員は17名です。

会 長 露木和雄(昭和45年卒) 会計 田伏純子(昭和44年卒)

副会長 軽石泰孝(昭和50年卒) 監事 谷口百合子(昭和36年卒)

事務局長 山本秀彦(昭和41年卒)

会員になって、ご支援をお願いします。

どなたでもWebページから ——→
入会いただけます。



甲府一高あおぞら会 お問い合わせ先

ホームページ：<https://ymkp.net/aozora/>

事務局mail: aozora@ymkp.net

ホームページとフェイスブック

入会のお申し込み以外にも、活動の様子、草刈りボランティアやイベントなどの日程や詳細は、ホームページとフェイスブックにてお知らせしています。チェックしていただき、活動にぜひご参加ください。



facebook →



- ホームページ

甲府一高 あおぞら会 AOZORA



甲府一高あおぞら会とは

甲府一高あおぞら会は、認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」(以下「難病ネット」)が運営するレスパイト施設「あおぞら共和国」の活動を支援する団体です。本会は2013年に設立されました。設立のきっかけは、山梨県立甲府第一高等学校の卒業生による女性中心のネットワーク組織「一紅会」が主催した同窓生向け講演会でした。小児科医であり難病ネット理事、そして甲府一高の同窓生でもある小口弘毅氏が、「難病の子どもたちと共に歩む小児科医」をテーマに講演し、レスパイト施設建設への協力を呼びかけたことから、支援活動が始まりました。この趣旨に賛同した同窓生が集まり、当初は数名でスタートした活動でしたが、2026年現在では会員数は400名を超え、その約3割は同窓生以外の方々が占めるまでに広がっています。設立当時の2013年は、雑木林を伐採した土地に1棟目の建設が始まったばかりでした。しかし現在では、最大で1日60名以上が宿泊可能な5棟のロッジと交流棟が整備され、これまでに延べ2万人の難病や障がいのある子どもたちとその家族が利用しています。難病ネットには、利用者から多くの喜びの声が寄せられています。甲府一高あおぞら会は、設立当初は建設支援を中心に活動してきましたが、現在では施設の運営・維持支援へと役割を広げています。施設の運営には毎年多くの費用が必要となるため、資金面での支援(遠方の利用者への交通費等の一部助成など)に加え、甲府一高同窓会を通じた支援の呼びかけ、難病ネットのイベント手伝い、山梨県人会をはじめとする各種ボランティア団体への働きかけ、年報の作成といった実務的な活動にも積極的に取り組んでいます。



難病ネット主催 ふるさと祭りの手伝い チャリティウォークのサポート



同窓会で広報活動 草刈りボランティアに参加 みんなで豚汁作成

あおぞら共和国を運営する「難病ネット」とは

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク。1988年に難病の子どものある保護者と医師によって活動が開始されました。東京都認証の認定NPO法人であり、難病や慢性疾患、障害のある子どもとその家族を支え、生活の質向上を目指して活動しています。本団体は、難病や慢性疾患、障がいのある子どもに関する相談支援を行うほか、サマーキャンプや親の会連絡会などの交流活動、シンポジウムやセミナーによる啓発活動を展開しています。さらに、地域活動の一環として「あおぞら共和国」の運営にも取り組んでいます。これらの活動を通じて、すべての子どもたちが笑顔で安心して暮らせる社会の実現を目指しています。また、山梨県と難病ネットは、「あおぞら共和国」において、「難病の子どもの未来支援事業」に関する連携協定を2025年に締結しました。ホームページ→<https://nanbyonet.or.jp/>

あおぞら共和国の紹介

難病ネット運営委員 田伏純子

あおぞら共和国は、難病や障がいのある子どもとそのご家族のための宿泊型レスパイト施設です。多くのご家族にとって旅行は、周囲への配慮、施設設備の不安、食事対応の難しさなど、さまざまな負担が伴うため、やむを得ず諦めざるを得ないことも少なくありません。難病ネットでは、山梨県北杜市白州町に寄贈された約3,000坪の土地を活用し、難病や障がいのある子どもたちとそのご家族が、誰にも気兼ねすることなく、好きなときに自然を楽しめる「夢のレスパイト施設」を建設しました。「レスパイト」とは「一休み」「息抜き」を意味し、ご家族が安心して心身を休めながら過ごせる場所を指します。このような施設は日本ではまだ非常に少ないのが現状です。本施設の建設および運営は、日本財団、日本メイスン財団、24時間テレビをはじめ、多くの団体・企業・個人の皆さまからのご寄付により支えられています。施設内にはタイプの異なる5棟のロッジがあり、それぞれにキッチン・トイレ・浴室を完備し、寝具もご用意しています。ご利用いただけるのは、難病や障がいのある子どもとそのご家族、その関係者・支援者・応援者、そして難病ネット会員の方々です。お知り合いに、難病や障がいのあるお子さんを育てておられるご家族がいらっしゃいましたら、ぜひ「あおぞら共和国」の存在をお伝えください。



難病ネット主催のチャリティウォーク終了後3号棟の前で集合写真



毎週土曜日には星空観察会を開催



広い中庭で走り回っても大丈夫



おおきなイベントでは気球を上げます



20名が宿泊できる3号棟で会食



交流棟では演奏会の開催も可能

あおぞら共和国を紹介する電子ブック

小口弘毅氏(昭和45年卒)他が10周年を記念し編集を行った「あおぞら共和国」を紹介する冊子です。電子ブックとして、甲府一高あおぞら会のホームページの中に掲載しております。→

